

平成30年度

実践交流会

資料



平成30年12月25日
岩手県立前沢明峰支援学校
実践研究部

目次

全体研究	P. 1	~	7
小学部	P. 8	~	16
中学部	P.17	~	24
高等部	P.25	~	29
寄宿舍	P.30	~	33

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 テーマ設定の理由

本校では平成22～24年度は「児童生徒の一人一人の生きがいのある豊かな生活を目指して～学年、学部、社会をつなぐとくみ～」、25～27年度「児童生徒一人一人の今と将来の豊かな生活を目指して～」、28～29年度「一人ひとりの主体性を育むより良い支援を目指して～タブレット端末の活用をとおして」というテーマで校内研究に取り組んできた。その中で、キャリア教育の考え方や、学部間、保護者、外部機関との連携の取り組み方、また授業におけるICT機器の活用の仕方について理解を深めてきた。昨年度の研究のまとめにあたっては、授業力を高めることこそがより良い指導支援を行うための基本となるということを確認できた。

さらに、学習指導要領が改訂され、小学部は平成32年度から、中学部は33年度から全面实施となり、高等部も34年度から年次進行で実施となる。改定の内容を理解し、日頃の教育活動に反映していくことも求められる。

【主体性・主体的】ということばが日常的に使われ、新学習指導要領にも継続的に取り上げられている一方、児童生徒のどのような姿が主体的な姿なのかということに関しては見方も様々で、曖昧なままになっているところがあると思われる。授業を考える過程で主体性のとらえ方や、主体的な姿に迫るため授業の工夫について突き詰め、共通した意識をもつことで児童生徒の主体的な姿を育成するためのより具体的なイメージに繋がっていくと考えられる。

上記を踏まえ、これまでの研究の成果や新学習指導要領の内容を考慮し、児童生徒の主体性について突き詰めて考えた授業改善に取り組むことで、児童生徒の主体的な学びをさらに促すための授業につながると考え、このテーマを設定した。

3 研究の目的

これまでの本校の研究成果や新学習指導要領の内容を反映し、児童生徒の主体的な姿を明確にした授業改善に取り組み、児童生徒がより主体的に学ぶことができる授業を目指す。

4 内容及び方法

(1) これまでの研究の再確認

ア 全体研究会の開催

5月に開催し、全体研究及び各学部の研究の内容、進め方について共通理解を得る。

イ 情報誌の発行

不定期で発行し、情報発信としての機能や、職員同士の実践の交流や共通の話題を広げる一助とする。

(2) 新学習指導要領の内容の理解の促進

ア 講演会の開催

高教研の講演会として行う。講師と日程については推進計画を参照。

イ 情報誌の発行

(3) 授業研究の推進

ア 各学部の研究

各学部、寄宿舍の実態や課題によって取り組むテーマを設定して行う。授業改善を主な取組とし、児童生徒の主体的な姿をどのように捉えるかについても深めていく。

(4) 授業改善の方法および授業内容の共有

ア 授業研究会の開催（年3回。各学部1回。）

各学部1回ずつの授業提案を行う。

イ 実践交流会の開催

12月に開催し、全体研究及び各学部の研究について中間報告を行い、それまでの成果や課題、次年度の進め方について協議をする。

5 今年度の取り組みについて

(1) 全体研究会（5月31日）

- ・今年度の研究の方針の確認
- ・質疑応答

(2) 職員アンケートの実施（6月下旬）

- ・本校職員の「児童生徒の主体的な学びの姿」に関するアンケートの実施（資料1、2）
- ・アンケートを受けて、本校における現状での児童生徒の主体的な学びの姿の提案（資料3）

(3) 講演会および学習会の実施

- ・高教研講演会（7月31日）

「主体的・対話的で深い学びとキャリア発達支援」

講師：植草学園大学発達教育学部 准教授 菊地 一文 先生

- ・第1回新学習指導要領学習会（9月4日）

「新しい学習指導要領の考え方～中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ～」

講師：岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当 主任研修指導主事 近藤 健一 先生

- ・第2回新学習指導要領学習会（10月19日）

「新学習指導要領の考え方～特別支援学校学習指導要領の改訂の要点～」

講師：岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当 主任研修指導主事 外館 悌 先生

(4) 各学部、寄宿舍での研究

- ・小学部 音楽科の授業についての授業改善を中心とした研究
記録シート、ビデオ記録での意見交流
- ・中学部 生活単元学習の授業改善を中心とした研究
授業記録表を活用し、職員間の共通理解を図る取り組み
- ・高等部 作業学習の授業改善を中心とした研究
作業学習を見合う週間を設定し、意見交流をする機会を設けた
- ・寄宿舍 日常生活場面における指導に関する研究
実態把握のためのツールとして適応行動評価（VinelandⅡ）を活用

(5) 授業研究会の実施

- ・第1回 高等部授業提案（7月19日 研究会は20日）
3年生 生活単元学習「自分のことを知ってもらおう」
- ・第2回 中学部授業提案（9月10日 研究会は20日）

1年生 生活単元学習「修学旅行壮行式を成功させよう！」

・第3回 小学部授業提案（11月22日）

高学団 音楽「秋の音楽を楽しもう」

（6）実践交流会の開催

研究の中間報告の場として行う。これまでの経過の報告について協議する。そこで話題になったことや、助言を受けて来年度以降の研究の進め方を年度内に検討する。

6 まとめ

成果

（1）本校の現状での児童生徒が主体的に学ぶ姿の共有

職員アンケートの結果を基に、本校の現状における児童生徒の主体的な学びの姿を以下の3点にまとめた。

- ・個々の持つ力を発揮して、自ら考え、選び、判断しながら学ぶ姿
- ・活動内容や自分の役割を分かり、見通しをもって学ぶ姿
- ・興味関心ややりがいをもって意欲的に学ぶ姿

これらを基に、各学部、寄宿舍で児童生徒が主体的に学ぶ姿を目指して取り組みを行った。

（2）講演会や学習会を通じた、新学習指導要領の理解の促進

4 今年度の取り組み にあるように、新学習指導要領に関する3回の講演会、学習会を行った。これらを通して、新学習指導要領のキーワードや方向性などについて触れる機会をもつことができた。

（3）児童生徒の主体的な学びとは何かを考えるきっかけ作り

学部ごとの研究に組み込み、日頃の授業を見直すことや、授業研究会を通して他学部の職員と意見交換をすることによって、自分たちが児童生徒の主体的な学びを促すためにどのような工夫を行なっているのか、より良くするためには、さらにどんな工夫ができるかを考えるきっかけとなった。

（4）授業研究会を通じた意見交流

・小学部、中学部、高等部で各1回、授業提案及び授業研究会を行った。小グループの協議で、参加者の所属学部を均等にすることで、学部をまたいだ意見交換ができた。

課題

（1）これまでの研究を振り返り、本研究に活かす取り組み

今回の研究に取り組むにあたり、これまで本校で取り組んできた研究について、情報などを通して振り返る機会を作る予定だったが、まだ取り組むことができていない。これまでの研究内容が直接今回の研究内容に結びつくことは少ないかもしれないが、授業改善に取り組んでいく中で話題の一つとなるよう、今後取り組んでいきたい。

（2）主体的な学びの姿を目指す取り組みと、授業研究の関係性について

今年度、児童生徒が主体的に学ぶ姿を目指して授業改善に取り組んできた。授業づくりを行う中で授業改善に意識して取り組むことができたことは良かったが、授業研究会での協議などの中で、児童生徒が主体的な学びをできていたか、という点が曖昧になる面があった。

単元もしくは本時の目標が達成されていれば、主体的な学びができたということになるのか、という問いに明確な答えが出せなかったことや、教科の授業と各教科等を合わせた指導との違い

によっても説明が難しい場面があった。

今年度の取り組みを受けて、児童生徒が主体的に学ぶ姿についてより明確にしていく必要がある。指導案の中にそれをうまく反映させるような工夫や、授業研究会の進め方などの工夫を今後検討していきたい。

(3) 新学習指導要領の理解のさらなる促進と、授業改善

今年度は、講演会1回、校内の研修会を2回行い、新学習指導要領の内容の理解に努めた。キーワードや大まかな方向性については理解が進んだと感じているが、それらと日頃の授業の関連を理解し、現在の授業について改善を加えるべきところ、適切に取り組むことができているところなどについて検証し、改善するまでには至っていない。

新学習指導要領の内容については、講演会や学習会の中で内容が大幅に変わったわけではない、という説明が繰り返しあった一方で、主体的・対話的で深い学びの実現や、学習評価の充実など、新たな視点をもつことが必要、各教科等の目標を達成していくことと明記されていることが分かった。今後、それらのポイントの理解に努めるとともに、現在の授業における指導・支援等が新学習指導要領において適切かどうかということや、授業づくりをする上で必要な改善点について理解を進める取り組みを行いたい。

新学習指導要領の内容を反映した授業改善については、今年度は指導案に「知識及び技能」「思考力・表現力・判断力」「主体的に学ぶ態度」の3つの観点に即した目標及び評価を加えて取り組んだ。授業を作る過程で、3つの観点について意識した授業づくりにつながり、日々の授業を見直すきっかけになったと考える。しかし、新学習指導要領で示された、育成を目指す資質・能力が明確になっているかという点や、各教科等を合わせた指導における、各教科の目標や内容が確実に示されているかという点についてなど、具体的な検証にまで至っていない点が多い。次年度以降、研究の進め方や授業研究会の持ち方を工夫し、取り組んでいきたい。

(4) 授業研究会の持ち方について

課題の(1)にも関わることだが、授業研究会の内容についても検討の余地がある。今年度は各学部1回ずつの授業提案及び、研究会を行なった。各回とも協議の柱を設定し、付箋紙を用いて良かったところや改善の余地があるところを参加者から発言してもらい、議論をした。様々な意見が出てよいなどの良さも見いだせたが、肝心の協議の柱に基づいた議論や、それに迫るためのまとめかたについて課題が残った。

理由としては、協議の柱の立て方や付箋紙を用いた協議のまとめかたに工夫が足りなかったこと、時間的な制約などが考えられる。研究部として、知識やスキルを高めるための取り組みが必要と考えている。また、研究会の設定日時についても検討の余地があるので、次年度以降の課題としたい。

以上の成果と課題を受けて、来年度以降の研究のあり方を考えていきたい。取り組む内容や、目指すべきポイント等をより具体的にしていくことで、取り組みやすく、普段の授業に活用できるような研究内容を目指していきたい。

実践研究部 児童生徒の主体的な学びに迫るためのアンケート

先日の全体研究会を受け、先生方が児童生徒の主体的な姿や、そのための学びについて現状どのように捉えていらっしゃるのかを確認した上で研究を進めたいと研究部内でまとまりましたので、お忙しいこととは思いますが、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。締め切りがすぐですみません。

Q.0 まずは所属に丸をつけてください。

小学部 中学部 高等部 寄宿舍

Q.1 児童生徒の望ましい主体的に学ぶ姿とはどのような姿と考えますか？具体的かつ簡潔にご記入ください。箇条書きでお願いします。

※ご自身の担当している（していた）児童生徒をイメージしてお書きください。

Q.2 Q1でイメージした児童生徒の姿を引き出すために、①日々の授業で工夫しているところ、②できていないのでこれからやりたいな（やらねばな）と思っていることをお書きください。やはり箇条書きでお願いします。

①

②

Q.3 児童生徒の主体的な学びを考えるとときに難しく感じること、主体的に活動する様子がイメージしにくい状況や児童生徒の実態があれば、赤裸々にお書きください。

※はっきり言って何が主体的な姿か全くイメージできない。そもそも授業が成立しない状況がある、なども可。

Q.4 実践研究部員にひとこと

※アドバイスや応援メッセージ（どんどんください）、批判（胃を痛めながらも受け止めます）、誹謗中傷（できればやめてください）なんでも可。

ご協力本当にありがとうございました。

アンケートのまとめ

出てきたアンケートを見てみると、学部ごとに多少違いはあるものの、共通してあげられている視点やことばが出てきました。

でてきたキーワード、視点

Q1では

○自分から自分で

自発的、自ら、能動的などの表現も見受けられました。その後続くことばは、「考える」「動く(行動する)」「できる」などでした。

○見通し(活動内容の理解)

「見通しをもつ」という表現が多かったですが、「自分の役割を理解して…」「活動の内容がわかり…」「自分で準備、片付けをする。」など、やることを理解しているということも、同じような意味合いと捉えられると感じました。

○興味関心

「意欲的に…」「○○したい!」「児童生徒の好きな○○」「身近な○○」などの表現も同じことかな、と理解しました。どの学部からも出ていましたが、特に小学部の回答に多かったです。

Q2では

○考えさせるための工夫(自分から、自分で)

考えさせるような発問、答えるのを待つ姿勢などについていくつか出ています。時間などの問題でなかなかできていないという反省も出ていました。

○選択・決定する機会の設定(自分から、自分で)

答えられないときに選択肢を出すといった目的や、児童生徒の意見を取り入れるために行うというものもありました。こちらも余裕がないと結論を教師から出してしまうこともあるといった反省もありました。

○児童生徒にわかりやすくするための工夫(見通し、活動内容の理解)

見通しをもてるようにするための手順表やスケジュール表、わかりやすいことばや写真等を使った説明、動き方がわかりやすい場の設定、活動内容の明確な提示、繰り返しの活動をとおしての理解などに取り組んでいるようです。

○興味関心に即した題材、教材教具の工夫(興味・関心)

好きなことや得意なことを取り入れながら授業を考えているという回答が多数でした。ただ、さらに工夫が必要だと感じている方も多かったです。

○実態把握(見通し、活動内容の理解、興味・関心)

以上のようなことを考えるときに、実態把握が大事だし、それができていなければ児童生徒に合った授業はできないのでは？というような意見複数。

Q3では

○教師間の「主体的な学びの姿」の共有の難しさ

考え方の違いなどかあると感じている先生方も少なからずいるようです。

○どのような姿を「主体的」とするか→評価の基準

この行動は主体的と言っていいのか？座って聞いているけど、伝わっている？など。どこからが主体的な活動なのか？という線引きに迷うところもあるようです。

○障害が重いとされる児童生徒にとっての主体的な学びとは？

意思表示が汲み取りにくい、伝え方を工夫してもなかなか言いたい事が伝わらない、なかなか座っていられなくて、指示が伝わらない、など実態がある児童生徒の主体的な学びをどう捉えたら良いか？ということ悩んでらっしゃる先生もいます。

○一斉授業における個々の主体的な学び

周囲の環境や時間設定の関係で、個人の主体的な学びについて考えるのが難しい事があるようです。

○それ以前の問題

それぞれの児童生徒の抱えている課題のため、授業に参加する事がままならない状況がある場合もあります。そういう中で、本人や周りの児童の授業を成り立たせることに苦心されている先生もいます。

その他まとめていて気になった物

○できた！を大事にするための環境設定や、褒めるなどの認める姿勢が大事！

○日々の業務との兼ね合いでなかなか取り組めていない状況へのもやもや。

○効果的な単元を組む事が課題

○支援はあっていいものとするのか、限りなくゼロに近づけていくと考えるものなのか？

1 テーマ（全学部共通）

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

学習指導要領が改訂され、特別支援学校の小学部においては現在移行期間にある。職員それぞれが改訂された学習指導要領に目を通しているものの、その内容についてはこれから読み深めていく段階にある。そこで研究初年度は、まずは学部全体で新学習指導要領の内容について理解を深める1年にしたい。そのなかで新学習指導要領の内容について分からない部分を共有し、小学部としてどのように捉えていくのか、主体的な学びと絡めながら具体化していく。また、学部研究では新学習指導要領を読み深める教科を限定し、学団ごとに授業実践を行うことにした。教科を限定した理由は、研究初年度として研究の流れを職員全体でつかむ必要があること、学習指導要領の内容や主体的な姿について共通認識が必要であると考えたからである。様々な教育課程の児童がいるなか、音楽は児童も職員も全員が関わっている教科であることから、学部全体で取り組み、授業を見合うことができる。さらに、年間をとおして授業の内容に大きな流れがあることから取り組みやすく、主体性を引き出しやすいと推測した。このことから、1年次は「音楽」を取り上げ、研究を進めていくこととした。2年次以降は、さらに教科等を広げて研究に取り組んでいきたい。

3 内容及び方法

(1) これまでの研究の再確認

これまでの実践研究を振り返り、今回のテーマに必要な部分を再確認する。

(2) 新学習指導要領の内容の理解の促進

学部研究会をとおして、新学習指導要領の理解を深め、その内容を小学部として具体的に捉える。

(3) 授業研究の推進

新学習指導要領に基づき、学団ごとに授業を行い、児童の主体的な姿を引き出すことができるような実践をする。

(4) 授業改善の方法及び授業内容の共有

学部研究会をとおして授業内容や改善点について共有したり、授業を見合ったりする。

4 今年度の実践事例

各教科等／ 単元名	音楽	秋の音楽を楽しもう
授業概要	<p>○はじまりの歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドレミファソラシド」を音階で発音する。 ・「池の雨」を音階で歌う。 <p>○もみじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの目標を提示する（①きれいな声で歌う ②振りをしながら歌う ③歌詞を覚えて歌う）。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことが難しい児童にはもみじの造花を渡す。 ・一度全員で歌唱した後、代表で5学年が前に出て1番を歌う。3つの目標を参考にしながら聴いていた児童が感想を発表する。 <p>○子犬のピンゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて変化していく「BINGO」の部分をリズム打ちする。 ・1回目は手拍子で行い、2回目は鈴、タンブリン、カスタネット、サウンドシェイプの中から自分で選んでリズム打ちをする。 <p>○キッズソーラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法被を着る。 ・動きの確認をする。 ・T1の模範を見ながら、児童は踊ったり掛け声を掛けたりする。
工夫した点	<p>○もみじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名と曲の内容をイメージしやすくするために、テレビ画面に曲をイメージした写真やイラストを表示した。 ・歌うときの目標を3つ示すことで、目指すべき歌う姿をわかりやすくした。また、その目標を参考にすることで、友達が歌った歌に対する感想発表での発言の幅が広がるようにした。 ・歌うことが難しい児童にはもみじの造花を渡した。揺らたりして参加することで曲の雰囲気を感じられるようにした。 <p>○子犬のピンゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちでは、原曲の速度を遅くすることで児童の実態に合う速度に変更した。 ・繰り返すごとに1回ずつ増えていくリズム打ちを、児童にわかりやすくするために、歌詞カードの「BINGO」の部分に1文字ずつ手拍子のマークを足していた。 <p>○キッズソーラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法被を着ることで祭りの雰囲気が出るようにした。 ・振りのイメージをテレビ画面にイラストや写真で提示することで、児童がイメージをもちやすいようにした。
成果及び改善点	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを1年間同じ流れで固定していることで児童が見通しをもって取り組むことにつながっている。 ・「もみじ」で目標を3つ示した。3つの内、どれをがんばるかを自分で決めることで気持ちが前向きになり、主体的に歌に取り組む様子が見られた。さらに、その目標が感想の答え方のヒントにもなったことで、積極的に発表する児童が増えた。 ・打つリズムが変化していくことで集中が途切れず、メリハリの効いたリズム打ちができた。 ・法被を着ることで気持ちが盛り上がり、キッズソーランへの意欲が上がった。 <p>〈改善点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が学級ごとに縦に並び児童の座席配置について工夫が必要ではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「もみじ」での3つの目標は、感想発表の中では話して気持ちを伝えられる児童の主体性を引き出すことにつながったが、話すことができない児童の主体性にはつながらなかった。そこに配慮した工夫があればよかった。 ・「子犬のピンゴ」ではサウンドシェイプが人気で、選んでいる途中で数が無くなった。全員に渡っても余るくらいの個数を用意することが望ましかった。 ・キッズソーランを思い切り踊るには音楽室の広さは狭かった。
--	---

5 まとめ

成果

(1) 新学習指導要領の内容の理解の促進

- ・新学習指導要領（音楽）を読み、共有したいことや深めたいことについてのアンケートを実施し、以下の項目について話題にした。

ア 改訂のポイント、段階ごとの目標や内容	イ 新学習指導要領内の文言
ウ 段階的な指導と共通理解	エ 評価
オ 共通教材の取扱い	カ 主体的な学びに関すること
- ・授業実践をするなかで、新学習指導要領（音楽）の3つの観点に合わせた授業の目標を立てるように改善した。

(2) 授業研究の推進と授業改善の方法及び授業内容の共有

- ・現在の音楽の授業に関するアンケートを実施し、その結果を共有した。

ア 授業の流れに肯定的な捉え多数	イ 幅広い実態の児童への一斉授業の難しさ
ウ 目標・内容・評価に関すること	エ 音楽の専門性の向上
オ そのほか	
- ・学団ごとに音楽の授業を検討し、授業内容や指導方法についてアイデアを出し合うことで、職員の共通理解をより深めて授業を行うことができた。また、それぞれの学級の児童の実態や指導の困り感についても共有することができた。
- ・学部研究会で、記録シート①（資料小1）・授業記録ビデオ・学習指導案（略案）を用いて、低学団・高学団の授業実践を発表した。互いの授業内容や児童の様子を共有することができ、改めて授業を見直すきっかけになった。
- ・授業実践や記録シート②（資料小2）から、これまでの授業で行ってきたことや今回改めて授業を見直し実践する中で工夫した手立てが、児童の主体的な学びの姿を育てていることに気付くことができた。

ア 児童の興味関心を引きつけるような教材教具 （本物のドングリを用いた手作りマラカス、もみじの造花、ICT 機器の活用など）
イ 題材の選定（なじみある曲・季節や流行に合ったもの）
ウ 活躍できる場の設定（一つの題材に歌唱・楽器・身体表現と複数の要素をもたせる）
エ 授業の見通し（授業の流れカード提示）

課題

(1) これまでの研究の再確認

- ・直ぐに実践に入ってしまったため、これまでの実践研究について振り返る機会をつくることができなかった。

(2) 新学習指導要領の内容の理解の促進

- 新学習指導要領（音楽）に関するアンケートの回答について、学部研究会で取り上げた。内容の取扱いについての配慮事項に関して、体を動かす活動とは振り付けをすることでよいのか、現在の音楽の授業を振り返りながら意見交流をしたが、実際の授業に生かしたり、改善したりすることまで至らなかった。

(3) 授業研究の推進と授業改善の方法及び授業内容の共有

- 学部研究会をとおして得られた検討事項や、授業研究会、実践交流会での意見について今後検討する。

ア 共通教材の取扱い

イ 扱ってきた題材の整理

ウ 授業の構成

エ 指導方法、教材教具（楽器の扱い方に関する指導・音階の色分けやリズム譜の表記方法）

- 学団ごとに音楽の授業を見直し、授業内容や指導方法、改善できる部分について話し合ってきたが、検証するための十分な実践時間や授業を振り返る時間を取ることができなかった。

ア 児童の座席

イ T2以下の動き

ウ リズムを打つときの言葉掛け

エ 楽器の選定

【資料小1】

平成30年度小学部研究記録シート①

小学部研究 月 低学団・高学団

授業者：

- 1 主体的な学びの姿に関して、学団の授業で取り組むポイントや意識、工夫した点など
- 2 成果（こんな主体的な学びの姿がみられたなど、エピソードも一緒に）
- 3 課題
- 4 その他（学団で話し合ったこと、学部研で話題にしたいことなど）

※裏面に略案を付けます

【資料小2】

平成30年度小学部研究記録シート②〈音楽〉

年 組 記録者：

<p>名前 O・R</p>	<p>実態 歌が好きで、様々な童謡やアニメソングを知っている。学校生活の中でも、目にした物や会話の内容に関連する歌を口ずさむ。学団での音楽では、知っている曲でも恥ずかしさから歌ったり、リズム打ちをしたりすることが難しい。</p>		
<p>9月 3日</p>	<p>目標 ・音楽に合わせて模倣をしながら、身体各部位を叩いたり（楽器を鳴らしたり）、動かしたりする。</p>	<p>教師の手立て ・見える場所で手本を見せたり、教師と一緒に手を叩いたりする。興味もてるような言葉掛けを工夫する。</p>	<p>主体的な学びの姿 ・休み明けで朝からイライラが強かったこと、本時から席の配置が変わったことで、授業の前半は前の児童の椅子を蹴ったり、床に寝そべったりしていた。リズム打ちでは、T1の「上手にできた人は、どんどん立ってみよう」の声掛けに反応して、1回のみであったが自分から手を叩いた。</p>
<p>9月10日</p>	<p>目標 ・音楽に合わせて模倣をしながら、身体各部位を叩いたり（楽器を鳴らしたり）、動かしたりする。</p>	<p>教師の手立て ・どんぐりのマラカスやペープサート、楽器など興味をもつきっかけを作る声掛けをする。</p>	<p>主体的な学びの姿 ・「どんぐりころころ」では、自分からマラカスが欲しいと拳手をした。初めてみんなの前に出て、楽器を鳴らすことができた。「恥ずかしかった」と自分の席に戻ったが、曲の最後まで前でマラカスを鳴らすことができた。 ・タンブリンでのリズム打ちはできなかったが、シャラララ～という音が気に入り鳴らしていた。</p>
<p>10月15日</p>	<p>目標 ・音楽に合わせて模倣をしながら、身体各部位を叩いたり（楽器を鳴らしたり）、動かしたりする。</p>	<p>教師の手立て ・どんぐりのマラカスやペープサート、楽器など興味をもつきっかけを作る声掛けをする。</p>	<p>主体的な学びの姿 ・自分から「どんぐりころころ」を大きな声で歌い出した。そのことがT1に評価され、一番初めにマラカスをもらうことができ、嬉しく、満足そうな表情をしていた。 ・タンブリンは大きさの違いや鐘の部分に興味を示していた。教師が手を取ってのリズム打ちは、嫌がることなく一緒に手を動かすことができた。 ・褒め言葉に恥ずかしがることなく、嬉しそうな表情がみられた。</p>
<p></p>	<p>評価 ・「どんぐりころころ」では、大きな声で歌えたことで、みんなの前でマラカスを振ることができた。 ・「おつかいありさん」では、タンブリンの大きさや鐘の部分に興味を示していた。</p>	<p>次時に向けて ・褒め言葉に反応する様子がみられたので、本人の気持ちがりやすい言葉で声掛けをしていく。</p>	<p></p>

【資料小2】

平成30年度小学部研究記録シート〈音楽〉

年 組 記録者：

<p>名前 T・H</p>	<p>実態 音楽を聴いたり歌ったりすることを好むが、音楽の授業中に歌うことはない。興味がないときは立ち歩くこともある。</p>		
<p>9月 3日</p>	<p>目標 ・座って授業に参加することができる。 ・教師と一緒に、手や楽器を使ってリズム打ちをすることができる。</p>	<p>教師の手立て ・立ち上がったときは、椅子を示して座るように促す。 ・「タンウン」のリズムを声に出し、児童の手を一緒にリズム打ちする。</p>	<p>主体的な学びの姿 本単元の3時間目で、曲や内容に見通しを持てたのか、気分が乗っていたのか、あまり立ち歩きがなかった。「うたってみよう」の導入で本物のドングリを見て興味を持てたことも良かった。 リズム打ちでは、「タンウン」と言いながら児童の手を叩くと、興味を持ったようで「タン」と言って叩くように要求する姿も見られた。</p>
<p>9月10日</p>	<p>目標 ・座って授業に参加することができる。 ・教師と一緒に、手や楽器を使ってリズム打ちをすることができる。</p> <p>評価 ・前時と同様、題材の区切りでの立ち上がりはあるが、始まると戻ってくる。 ・タンブリンを持ち、「タン」と言ったり、リズム打ちをしたりする姿が見られた。</p>	<p>教師の手立て ・立ち上がったときは、椅子を示して座るように促す。 ・「タンウン」のリズムを声に出し、児童の手を一緒にリズム打ちする。</p> <p>次時に向けて ・「タンウン」のリズムを声に出し、児童の手や楽器を一緒にリズム打ちして、関心を持てるようにする。</p>	<p>主体的な学びの姿 立ち上がりではなく、教師に抱っこしてもらいたがる様子が多かった。児童の椅子を示し座るよう促すと座ることもあった。 タンバリンに興味を持っているようすが見られた。リズムに合わせて、声を出しながら叩き方を示すと、「タン」と声を出して叩くように要求したり、自らタンブリンを叩いたりすることがあった。</p>
<p>10月15日</p>	<p>目標 ・座って授業に参加することができる。 ・教師と一緒に、手や楽器を使ってリズム打ちをすることができる。</p> <p>評価 ・立ち上がりはほとんど見られなかったが、教師の膝に座ったり、床に寝転んだりすることがあった。</p>	<p>教師の手立て ・立ち上がったときは、椅子を示して座るように促す。 ・「タンウン」のリズムを声に出し、児童の手を一緒にリズム打ちする。</p> <p>次時に向けて</p>	<p>主体的な学びの姿 「どんぐりころころ」で、2番の始めのあたりで声だししていた。メロディは違うが、歌っていたように聞こえた。ドングリのマラカスに自分から手を伸ばし、前に立って発表することができた。 リズム打ちでは、久しぶりのためか、前回ほど積極的に叩く姿は見られなかった。が、タンバリンを嫌がったり、手を持たれて叩くことを拒否したりする様子も見られなかった。</p>

【資料小2】

平成30年度小学部研究記録シート〈音楽〉

年 組 記録者：

名前 S・Y	実態 歌うこと、楽器を鳴らすこと、踊ることは好きである。歌いながら身体表現をしたり、音楽に合わせて独自の踊りを踊ったりする。 楽器を演奏する際、担当されたパートのリズムで演奏することやお手本の振り付け通りに踊ることが難しい。		
11月6日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて身近な楽器を演奏する。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲が変わり、パートに分かれる楽曲ではなくなったが、リズムが増えていくのが楽しいようで、リズム譜をよく見てその通り手を打とうとする姿が見られた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣で教師も一緒にやる。 「次は何個打つよ」と直前に声を掛ける。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 難しいところ（最後だけ休むところ）は教師がリズムに合わせて体に触れるようにする。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム譜を見て、リズムの通りに打とうとしていた。 キッズソーランをノリノリで踊っていて、終わった後に「楽しかった」と言っていた。
11月15日	～略～		
11月22日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて身近な楽器を演奏する。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 難しいところも教師の手本を見ることで概ねリズム譜のとおり演奏できるようになってきた。全部楽器を打たない場面で楽器を打つ様子が見られたが、ストップのジェスチャーをすることで2回目は打たず、大きな声で歌った。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後だけ休むところは教師がリズムに合わせて体に触れるようにする。 打つところと休むところを教師が隣で大きさにやる。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 打つところと休むところを教師が隣で大きさにやる。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 子犬のピンゴを大きな声で歌っていた。 自分が演奏してみたい楽器を選択し、決定することができた。
11月27日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて身近な楽器を演奏する。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の手本を見ながら概ねリズム譜のとおり楽器を演奏していた。ずっと同じリズムで演奏するときより、曲に集中している様子がうかがえた。リズムを打つ回数が徐々に増えることとそれが視覚的にわかりやすかったことで、集中力を切らさずに演奏できたのではないかと感じた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 打つところと休むところを教師が隣で大きさにやる。 <p>次時に向けて</p>	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> もみじで、「前に出て歌いたい人」と聞かれると積極的に拳手をしていた。 自分が演奏してみたい楽器を選択し、決定することができた。

【資料小2】

平成30年度小学部研究記録シート〈音楽〉

年 組 記録者：

名前 O・S	実態 歌うことが好きである。歌詞を部分的に覚えて歌うことができる。楽器を演奏する際、やりたい楽器を選び、演奏することができるが、手本のリズムに合わせて鳴らそうとするが、途中でリズムがずれてしまう。		
11月13日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい音楽の内容に興味をもつ。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞カードや紅葉の映像をよく注目していた。 リズムやダンスの時、T1に注目して模倣していた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲のイメージが広がるようにICT機器を活用してイラスト等を提示する。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム打ちで打つ回数が増えていくことを意識できるように、教師が回数を確認する。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞ははっきり覚えてはいないが、聴きながらまねして歌っていた。 リズム打ちでT1の手本をよく見ていた。
11月15日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の手本に注目して、リズム打ちのタイミングを合わせようとする。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 完全に合わせることは難しいが、始まる場所や終わる場所を理解して演奏していた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 打つ回数が変わる度に、回数やリズムを確認する。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の中の「もみじ」の部分だけでも歌えるように、カード等で示す。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏のはじまりとおわりを自分で判断して演奏を始めた、やめたりした。 教師の手本をよく見て、キッズソーランを踊っていた。
11月22日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もみじ」を歌うとき、歌詞の中の「もみじ」の部分の正しく歌う。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 指さしながら確認したことで、はっきりと歌うことができていた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を書いたカードを歌う直前に提示する。 うまく歌えたときには褒める。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 覚えて歌うことができるまで、継続する。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 始まる前に、「もみじ」とタイトルを言っていた。 「子犬のピンゴ」で、手をたたく回数を、自分から教師に確認してきた。 ダンスでは、教師の手本を見て踊ることができていた。
11月27日	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もみじ」を歌うとき、歌詞の中の「もみじ」の部分の正しく歌う。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もみじ」と書いたカードを示すことで、比較的明瞭に歌うことができていた。 	<p>教師の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を書いたカードを歌う直前に提示する。 うまく歌えたときには褒める。 <p>次時に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もみじ」のカードを提示するタイミングが遅く、歌に合わせて歌えないことがあったため、教師がカードを示すタイミングを工夫する。 	<p>主体的な学びの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を揺らしながら「もみじ」を歌っていた。 キッズソーランでは、「どっこいしょ」「ソーランソーラン」の声を出しながら、笑顔で踊っていた。

1 テーマ（全学部共通）

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

中学部では、「現在の生徒及び近い将来在籍する生徒にとってより良い学びができるような授業実践を行いたい」という思いの下、生徒が主体的に学ぶことができる授業作りを日々行っている。生徒の主体的な姿は一人一人によって異なり、その姿が発揮される場面も様々である。日々の学習の中で知識及び技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を育成し、生徒自ら学びに向かう姿勢や生徒一人一人の人間性をゆっくりと養い育てていくことで、生徒の生活の充実・発展につながると考えている。これを踏まえ、生徒が日々の学習で身につけた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解し、考えを形成すること、そして、中学部全体で問題を解決したり思いや考えを基に創造したりすることができる「生活単元学習」を深めていき、生徒の主体性を引き出すことができるような研究を進めていきたい。主体的な姿が生徒一人一人によって異なることから、生徒の実態把握はもちろん、授業そのものや目標設定で職員同士が生徒一人一人の主体的な姿を共通認識し、その姿を目指した授業作り（活動内容・流れ、場の設定・道具・補助具等の工夫、職員の関わり方等）を行っていくことでより良い学習につながると考える。

3 内容及び方法

(1) これまでの研究の再確認

全体研究・中学部研究を振り返り、これまでの研究の中で捉えられてきた主体的な姿などについて再確認する。

(2) 新学習指導要領の内容の理解の促進

学部研究会をとおして新学習指導要領の理解を深め、生活単元学習において中学部内で具体的に捉えていく。

(3) 授業研究の推進

中学部の各学級・学年などでの生活単元学習について研究授業及び授業研究会を実施する。授業を行っていきながら、また、研究会で出た意見等を踏まえながら、生徒の主体性を引き出すために必要なことを一人一人確認し、学部で共有していく。

(4) 授業改善の方法及び授業内容の共有

授業改善の観点や授業の記録などを統一し、職員全員で生徒一人一人の主体的な姿について共通意識をもって取り組む。

4 今年度の実践事例

各教科等／ 単元名	生活単元学習	「修学旅行壮行会を成功させよう！」
授業概要	<p>中学部全体で修学旅行壮行会を行うにあたり、1年生が担当するお守り作りについて単元を組み、授業を展開した。</p> <p>本単元では、「楽しい旅行にしてほしい」「けがや病気等なく無事に帰ってきてほしい」等の気持ちを伝えることから、「無事カエル（帰る）守り」を作ることにした。相手を想って丁寧に活動に取り組むことやみんなと協力することで得られる喜び</p>	

	<p>や達成感等を味わってもらいたいと考え授業を展開させた。</p> <p>○本時の授業について</p> <p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認。 本時の目標、内容について板書やイラスト等を使って説明。 楽しみながら活動するためのきまり確認。 ・みんなで協力して行うことを意識できるようにエイエイオー！の掛け声。 <p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の活動。 (紙すきグループ) 紙ちぎり、紙すき液作り、紙すき。 (装飾グループ) お守りのメッセージ書き、イラスト描き、台紙切り、ラミネート。 ※途中に休憩を挟んだり、実態に合わせて活動内容を変えたりした。 <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したお守りの発表。 実物を見ながら、目標に合わせたそれぞれの頑張り等を発表。 ・次時の学習内容について確認。
工夫した点	<p>○見通しをもち、主体的に活動したり楽しんだりするための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習での日程や内容等の確認。 ・写真やイラスト等の活用。 ・一人一人の役割や手順等の提示・確認。 ・集団活動での基本的なきまりやルールの提示・確認。 <p>○安心して活動に取り組むための工夫（集団や長時間の活動に苦手意識のある生徒への支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団のグルーピング、場の設定。 ・動きや変化をもたせたメリハリのある活動の設定。 ・経験や得意なことを生かした活動内容の設定。 <p>○相手を意識できるようにするための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他生徒の活動を見たり一緒に活動している雰囲気味わったりできるような場の設定。 ・相手と直接話したり好みを聞きに行ったりする活動の設定。 ・相手の顔写真や好みのイラスト等を視覚的に提示。 ・思いを込めて丁寧に作ることが相手の笑顔につながることを伝える。 <p>○授業記録表（資料中1）の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動する姿を引き出し、伸ばしていけるよう、職員間で生徒の実態を共通理解し、より良い授業を作ることができるよう、日々の様子を記録し、共有する。
成果及び改善点	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業記録表を活用したことで、日々の生徒の様子を確認しながらより主体的に活動に取り組むことができるように手立てを工夫することができた。 ・生徒がお守りを渡す相手を意識して活動に取り組む様子がみられた。「喜んでくれ

	<p>るかな?」「早く渡したいね。」等の発言もあり、自分のためだけではなく相手を思っ ての活動にも取り組むことができてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の経験や得意なことを生かした内容を設定したり、場の設定や一人一人の活動内容を工夫したりしたことで、どの生徒も最後まで取り組むことができた。 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> 実態を考慮し、より高次の目標・活動を設定した方が良かったところがあった。 作業的になってしまったところもあるので、生活単元学習の良さを生かした授業の展開をもっと工夫すべきだった。 具体的な目標の提示の工夫が必要だった。生徒がどこまで理解しているのか等、見取りが難しい。
--	--

5 まとめ

今年度は今までの実践を振り返りながら、生活単元学習での生徒の主体性を引き出すための授業作りについて学部全体で考えを共有してきた。以下、中学部の職員アンケート（資料中4）も受け、今年度の取り組みによる成果と課題を挙げていく。

成果

- （1） 中学部全体で生活単元学習の授業を考え直す機会を設けることができた。これまでの研究で学部として捉えてきた“生徒の主体的な姿”を確認したり、今年度行った全体アンケートを基に、主体性に対する方向性をまとめたりして、職員間で共通認識して実践に取り組むことができた。
- （2） 新学習指導要領の研修を重ねてきたことで、新学習指導要領の内容や目標等と関連させながら単元設定や授業内容を考えていくことができた。
- （3） 授業記録表（資料中1～3）を作成したことで、毎時間の授業を振り返り、生徒の様子や改善点等を職員間で共通理解しながら次の授業に生かすことができた。また、学部全体でも授業を参観したり意見を出し合ったりしたことで生徒の実態把握や情報共有を行っていくことができた。

課題

- （1） 「生徒主体の授業作りや単元設定」について深められる研究にならなかった。毎年行われる行事等の単元が前年までのものを踏襲したものになりがちで、その単元自体の組み立て方を十分に検討できなかった。また、生徒の気付きや意見等を取り入れた授業作りを行っていくことに難しさがあり、より職員間で検討していく必要がある。
- （2） 授業記録表（資料中1～3）を作成して取り組んだが、時間の関係等で毎日取り組むことが難しいことがあった。また、記録表の様式が書きづらいところもあり、少しの時間でも取り組みやすい様式等を考え、変更する等の改善が必要だった。
- （3） 生徒の実態把握の段階から職員間で話し合い、一人一人に合った活動内容の設定や指導・支援を考える必要がある。それぞれの見立て等は異なり、それによって学習の指導・支援方法や評価の仕方も異なってくるので、より職員間で方向性を統一していく必要がある。

以上の成果と課題を踏まえ、今後は新学習指導要領実施に向けて、目標や内容等と関連させながらより具体的に単元内容等の設定を考え、実践していきたい。生徒の実態を踏まえた単元の設定はもちろん、毎年行われる行事等の単元についても生徒の気付きや考えを生かし、内容や活動についても検討を重ねていきたいと考えている。

【資料中1】

中学部 授業記録表 単元名「修学旅行壮行会を成功させよう！」(1年生)

生徒名 C・S

<目指す主体的な姿>

- ・友達と協力して活動に取り組む。
- ・作業内容がわかり、丁寧に活動に取り組む。

日にち・内容	目標	様子	改善点など
9/5 (水) お守り作り	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当が分かる。 ・作業内容がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動し、作業内容を確認した。 ・ミキサーに水を入れることができたが、濡れた手で行うのは危険であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・500 mlのペットボトルを用意する。 ・タオルを用意する。
9/6 (木) お守り作り	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花紙をとりすぎてしまうことが多い。 ・どの色を作ればいいのか分からない様子だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に量を確認する。 ・作ってほしい色のカードを使用する。
9/7 (金) お守り作り ※今回からミキサーと紙すきの活動を交互に行うことにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から活動に取り組む。 ・友達と協力して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から活動に取り組んでいたが、スピードが速く投げやりにみられるところがある。 ・友達に紙すき液を渡す姿があった。 ・友達の様子から、「カエルを作りたいです。」という発言あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に作ることで渡す人に喜んでもらえることを伝える。(見通しをもっているからこそその姿でもある。)
9/10 (月) お守り作り	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して活動する。 ・渡す人のことを考えて丁寧に「お守り作り」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黙々と活動に取り組み、集中するあまり友達に紙すき液を渡すことはなくなった。 ・「端まで」の声掛けで以前よりも丁寧に紙すき液を流し込むことができた。 ・称賛するとにやりと笑う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※授業時間外で、一緒に活動する友達と内容を確認することがあった。
9/11 (火) 最終準備 修学旅行壮行会	<ul style="list-style-type: none"> ・渡す人に自分で「お守り」を渡すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔写真を確認し、自分で渡す人の前に行ってお守りを渡すことができた。 	

【資料中2】

中学部 授業記録表 単元名「 みんなで働こう!② 」(2年生)

生徒名 O・K、T・S

<目指す主体的な姿>

- 自分の作業内容が分かり、意欲的に取り組む。(O・K、T・S)
- 友達や教師と協力して作業を進める。(O・K)
- 新しい作業にも取り組んでみる。(T・S)

日にち・内容	目標	様子	改善点など
11月26日(月) 「単元のオリエンテーション」	• やりたい作業班を選択する。	• メンバーを確認しながら、前回と同じペットボトル班を選択する。(O・K) • 缶とペットボトルを提示され、前回と同じペットボトル班を選択する。(T・S)	• 前回と同じ作業から取り組むが、様子を見ながら新しい作業にも挑戦してみる。
11月27日(火)	• 前回の作業内容を思い出して取り組む。 O・K→ペットボトル潰し T・S→ラミネート剥がし	• すぐに思い出して取り組み始め、分からないところは教師に確認しながら取り組む。(O・K) • セッティングを見てすぐに取り組み始め、上手くできないときには「お願いします」と言いながら行うが、間もなく床に座り込んでしまう。それでも促すとそのままの姿勢で作業は行う。(T・S) • 気分が変わるかペットボトル潰しにも挑戦してみるがすぐに座り込んでしまう。(T・S)	• 言葉で指示しながら、一人で取り組める部分を増やしていく。(O・K) • 座り込んでしまうが、そのままの姿勢でも行えば良しとするか迷うところである。(T・S)
11月28日(水)	• ペットボトル潰しに取り組む。(O・K) • ラミネート剥がしとペットボトル潰しに取り組む。(T・S)	• 疲れたと話すので、根を詰めずに5分休んでまた始めるように話すと、休憩後自ら仕事に取り組み始める。(O・K) • ペットボトル潰しは気持ちが向かないようである。ラミネート剥がしも行うが遊びも出始	• 個々に応じた、作業の進め方の捉えや工夫も必要か?

【資料中2】

		め、やはり床に座りたがる。(T・S)	
12月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> • ペットボトル潰しに取り組む。(O・K) • ラミネート剥がしとペットボトル潰しに取り組む。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • T・Sさんに就いてしまうので、潰したペットボトルをまとめたり集積場に持って行ったり作業の流れの中で行うよう指示。動きのある仕事の進め方があっていいようだ。(O・K) • やはりペットボトル潰しは気持ちが向かないようである。ラミネート剥がしは行うが、遊びと座り込みはある。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • ひとつの事を行うより出来そうなことを加えていくことも自主的な活動を促せそうである。(O・K) • 場の設定、適性が大切か?(T・S)
12月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • 一連の流れで作業に取り組む。(ペットボトルを潰し、袋にまとめ、集積場に持っていく)(O・K) • ラミネート剥がしに取り組む。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • 作業を確認しながら取り組む。(O・K) • 場の設定により、昨日までよりは取り組み易いように見える。しかし遊びは入る。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • T・Sさんは一人でできる工夫が必要か?
12月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> • 一連の流れで作業に取り組む。(ペットボトルを潰し、袋にまとめ、集積場に持っていく)(O・K) • ラミネート剥がしに取り組む。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • 「これしますか？」等自主的な様子が見られるようになる。T・Sさん手伝いを頼むと快く引き受ける。(O・K) • 場の設定は、T・Sさんには効果的。それでも職員の目が離れると遊びながらであったり座り込んでしまったりする。しかし、座りながらもO・Kさんと一緒に作業をまた始める。後半は、手でペットボトルを潰したりもしていた。(T・S) 	<ul style="list-style-type: none"> • 場の設定の工夫。(流れ) • 生徒同士の関わりの取り入れ? • 教師の入り方の考え方。

- 記録することの良さ。これをもとに個々の生徒の指導、自主性・主体性のある姿、引き出し方について話し合える時間があると良い。
- 主体的に働く姿や将来働く力についての教師間の共通認識も必要では。

【資料中3】

中学部 授業記録表 単元名「修学旅行を成功させよう」(3年生)

生徒名 _____ K・T

<目指す主体的な姿>

- ・線や点など、目標物をよく見て、掲示物づくりに取り組むことができる。
- ・自分の役割が分かり、行動することができる。

日にち・内容	目標	様子	改善点など
8/23(木) 活動グループ発表 組織作り	・ディズニーキャラクターの本を見て、キャラクターを1つ選ぶ。(グループ名を決定するため)	・教師が見せたキャラクター全てを指さした。	・自分で開いてじっくり見ていたページから選ぶなど、選択肢を限定する。
8/24(金) 見学先調べ学習	・下書きの線のとおり画用紙を貼り、スカイツリーの模型を作る。	・両面テープを剥がし、線の長さと同じ長さの場所に、ほぼ正確に画用紙を貼り付けた。また、スカイツリーの写真を見て、自分で絵を描いていた。	・2つのものの長さを比べることができるので、画用紙を下書きの長さに切る作業を取り入れても良い。
8/27(月) 見学先調べ学習 調べたことの発表	・手元を見て写真にのりづけし、掲示物づくりに取り組む。 ・関心のある場所「おすすめスポット」の写真を選び、発表時その写真に星印をつける。	・教師が手渡しした写真にのりづけし、教師が指さした場所に貼り付けた。手元をよく見て取り組んでいた。 ・好きな写真を見つけ、発表時に星印をつけることができた。	・好きな順、または決められた順に自分で写真を選択できるよう配置を工夫する。 ・「おすすめ」と言葉で言うことができるよう練習が必要。
8/28(火) ディズニーランド計画	・乗り物の映像や写真を見せ、O×カードで選択する。	・乗りたくないアトラクションには、教師が2・3度聞いても×を指さした。汽車のような乗り物が好きな様子だった。	・O×カードは有効である。 ・アトラクションの動画を見て判断できたと思われる。人形がある、暗いなどがわかった。
8/29(水) ディズニーランド計画 計画発表	・グループ計画で、食べたい昼食やおやつ写真を選ぶ。 ・発表の際に食べたいおやつを指さしする。	・教師が見せた食べ物全てを指さした。しかし、3つほどに選択肢を絞ると、1つだけ指さした。 ・発表では食べたいおやつ複数指さした。	・見たもの全てを食べたい様子だった。特に食べたいものにシールを貼るなど1つだけ選べる工夫をする。また、他の生徒が選ぶ姿を見てから選択するとやり方がわかる。

中学部 研究アンケート結果（今後の展望に絡めて・・・）

☆授業研究会で頂いた意見を基に日々の実践を振り返りながら、学部内で生活単元学習における「生徒の主体的な姿」を引き出すための単元・授業作りについてアンケートをとった。

◎生徒の興味・関心を取り入れた単元の構成について（行事等との兼ね合い等も含めて）

- 生徒の実態把握を確実にし、それをグループ、学年等で共有する。そこから、生徒の興味・関心が何であるかを探り、生活単元学習、各教科の中で「どう指導・支援するか」をグループ、学年団で共有する。
興味・関心を引き出すアイデアやテクニックをいつも出し合い、ストックしておく。
- 生徒の意見を部分的に取り入れた活動（学習）にする。
- 生徒が興味・関心をもてる単元をどう組んでいくかが最初の課題。毎年繰り返される行事等の取り組みならなおさら。
実態から行事ではなく、トピック的単元を組んでいくことも年に1～2つあったら生徒のモチベーションも変わってくるのではないかな。
- あり過ぎる支援よりほどよい支援。
毎回同じ活動をしていても、定着しない、分からないこともある。
- 生活単元学習は子どもたちのニーズに合わせて内容を変えていって良いものなので、年度初めの計画と違うものになって良いと思う。
中学部でこれまで生活単元学習で取り組んでいる「働こう」「選挙準備」「アルバム作り」等、必ず単元を組んで行わなければならないものではないと思うので、授業の内容や量を考え、その時期、生徒にとってニーズや興味・関心が高いものを行う方が望ましいのではないかな。
- どうしても行事数が多いように感じているが、個々の主体性を引き出していけるような内容の単元を考えていけると良いと思う（“させられる”ではない”する”と感ぜられるような）。
学年だけではない学級生単の時間も必要と感じている。

◎生徒の個別の目標や教科等との関連性について

- 教科とつながりをもたせる（教科で個別の課題に対応する）ことと、その時期の生活づくり。
（生活単元学習等の）集団の場で関連づけて活用することで主体的な姿につながるのでは？
教科と関連づけることで、活用したり発展（工夫）させたりできるのではないかな？より計画的に取り組みたい。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標と単元の個人目標を照らし合わせ、教材等を工夫することで主体的な活動に近づけるのではないかな。
- 生徒の特性をよく知ること！
その上で、場の設定、グループ分け（相性や人数）、見通し、教材、「できた」ことの認め合い等を考え、工夫していく。

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して～新学習指導要領実施に向けた授業の見直し～

2 学部の方針

高等部ではこれまで、自分が希望する進路先を自分で選択し、決めて卒業し、卒業後には豊かな生活を送ることを願って「社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成を目指して（平 25～27）」及び「社会生活能力の確立をめざして～タブレット端末の活用～（平 28・29）」とのテーマで学部研究に取り組んできた。

卒業後、働く場面においては、自分で考えて仕事をする力や、経験したことは指示がなくとも継続して取り組める力が求められている。一般就労する生徒だけでなく、福祉的就労をする生徒においても、学校時代よりは少ない職員数の中、一定時間、作業に取り組まなければならない。卒業後を見通し、主体的に行動する意識を養いたいと考える。

新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開」とある。生徒同士の協働や職員・地域の人との対話をしていくこと、体験を通じて様々な物事を理解していくことなどを大切に、場の設定や教職員からの働きかけ等も、生徒を取り巻く環境と捉え、生徒が主体的に活動できる授業作りに取り組んでいく。

3 内容及び方法

(5) これまでの研究の再確認

過去の研究を振り返り、高等部として考える主体的な姿などについて再確認する。

(6) 新学習指導要領の内容の理解の促進

新学習指導要領の内容を確認し、授業実践に取り組む。

(7) 授業研究の推進

作業学習等を中心として授業実践に取り組み、支援者の考える主体的な姿を明らかにしていく。

(8) 授業改善の方法及び授業内容の共有

定期的に作業班毎の授業計画や生徒の情報交換をする時間を設け、授業を振り返ることで課題を共通理解する。現状の課題を明らかにし、授業改善に取り組む。

4 今年度の実践事例

各教科等/ 単元名	3年2組 生活単元学習	「自分のことを知ってもらおう」
授業概要	単元の目標「自分や相手のことを知る」「相手に自分の気持ちを伝える」「相手の気持ちを考えて行動する」について年間を通し取り組む。卒業に向けて、家族の思いに触れ、家族に感謝の気持ちを伝えられるような場面を設定する。 【本時の学習】 自分の誕生日を知り、誕生日とはどういう日なのかを考える機会とする。進	

	<p>路に関わって、誕生日を聞かれたり書類に記入したりする場面があるため、自分で答えられたり、記入したりできるようする。名刺交換については、毎年行政担当者との交流会で行っており、生徒は全員経験している。名刺カードに名前と誕生日を記入し、渡すという活動をとおして、自分のことを相手に知ってもらう機会とする。今後は、学級の友達のことを紹介し合う「友達紹介」や自分の家族について紹介する「家族紹介」、家族に感謝の気持ちを伝える会の計画を立てる。</p>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の「できる状況づくり」を考えて、教材教具の工夫や教師の関わり方を工夫し、T・T間の役割分担を行った。 ・一人一人に応じた支援を行うことで、できるだけ自分で考えて活動できる場面を設定し、満足感を味わえるようにした。 ・興味・関心がないと離席する生徒や、集中が途切れやすい生徒もいるため、授業の中にバースティラインや名刺渡しなど動きのある活動を取り入れた。 ・生徒同士で活動する場面を作った。 ・一人一発言する機会を設けるとともに、友達の発言に注目できるよう場面設定した。
成果及び改善点	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が主体的に、期待感をもって生活単元学習に取り組めるよう、以下の指導目標を確認し、活動内容を考えることができた。 ア 興味・関心もてる。 イ 目的が明確である。 ウ 人との関わりが伴う。 エ 個々の力を発揮できる。 オ 満足感が味わえる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習としての年間計画の中で、学級として扱える時間が不定期であるため、単元の中で間隔があいてしまった。 ・授業に動きを作るために取り入れたバースティラインと名刺渡しであったが、流れとして唐突の感があった。

5 まとめ

成果

(1) 授業研究の推進

児童生徒の主体的な学びに迫るためのアンケート（資料高1）を実施し、高等部として考える生徒が主体的に学ぶ姿を確認した。

- ・自分からまたは自分で活動する姿。（自分の意思で・自分で気づいて）
- ・自己選択・自己決定する姿（自分で考え、行動する）
- ・興味関心をもって活動する姿。
- ・今やることがわかり、行動する姿。（見通し）

- ・精一杯やりがいをもって活動する姿。

(2) 授業改善の方法および授業内容の共有

作業学習の授業を見合う週間を設定した。生徒が主体的に学ぶ姿、より主体的に学ぶための工夫に焦点を絞って、お互いの授業を参観した。他の作業班を見学することで、普段の生活とは違う生徒の活動の様子や態度に気づくことができた。

改善点や疑問などをまとめたものは各作業班に渡し、各班では内容について検討して授業改善につなげた。

課題

(1) 授業研究の推進

学部としての研究推進計画の遅れから、授業研究会での授業提案が生活単元学習となった。作業学習の様子を全体で確認することはできなかったが、生徒の実態がさまざまな学級での生活単元学習、特に一斉指導の場面について協議できたことは意義があった。

作業学習という、指導者からの指示が多くなりがちな学習の中で、いかに主体性を育むか、一人でできる状況を作りながら生徒の自己流にならない取り組みをつくれるかが課題である。

(2) 新学習指導要領の内容の理解の促進

新学習指導要領については、特別支援学校高等部学習指導要領の改訂が示されていないこともあり、具体的な内容について学習が進められず、全体で行った講演会や2回の学習会で情報を共有した。小中学部の学習指導要領の総則部分や、解説の内容等の学習など高等部の学習指導要領にも関連するであろう部分については、可能な限りで取り組むことが必要だった。

Q.1 児童生徒の望ましい主体的に学ぶ姿とはどのような姿と考えますか？

- ・自分から、自分で活動する姿。
- ・自分のやるべきこと、役割がわかって活動する姿。
- ・自分の仕事（役割）や活動にやりがいを持ち、意欲的・積極的に活動する姿。
- ・与えられた、任された行動がわかって動けること、活動できること。
- ・目標、目的を少しでも明確にもって取り組む姿。
- ・経験や学習を通して、自分で考え行動すること。
- ・見る、聞くなどの受動的な姿ではなく、遊ぶ、作る、働くなどの受動的に活動する姿。
- ・精一杯活動し、活動への喜び・成就感・達成感を持つ姿。
- ・仲間と協力しあい、仲間との生活 楽しみを持つ姿。
- ・自分の意思で行動できる。自分で気づいて行動できる。
- ・困った時に相談できる。わからない時に聞くことができる。
- ・今日も明日も安定してできること。意欲的に活動すること。
- ・授業に興味関心をもって臨んでいる。
- ・指示待ちではなく自分から行動できる。
- ・自分で工夫したり、イメージをもって活動する姿。
- ・自己選択や自己決定ができること。
- ・やらされている感がない姿。
- ・目がキラキラと輝いて活動している姿。
- ・〇〇を知りたいから学ぶ、探す姿。
- ・自分で準備や片付けができる。

《キーワード》

- ・自分からまたは自分で活動する。
- （自分の意思で・自分で気づいて）
- ・自己選択・自己決定
- （自分で考え行動する）
- ・興味関心をもって活動する。
- ・今やることわかって行動する。
- （見通し）
- ・精一杯 やりがいをもって

Q.2 Q1でイメージした児童生徒の姿を引き出すために

①日々の授業で工夫しているところ

- ・見てわかる、話して伝わる、伝え方の工夫。
- ・相手の理解、認知の実態把握と、その次の学習段階の設定。
- ・子どもが「できない」「やらない」という状況は教師の実態把握の甘さ、できる環境作りの不足が原因と考え、なるべく子どもが自分から取り組む活動や、状況作りを心掛けている。
- ・自分で決められない生徒へは選択させる。
- ・生徒にとって身近なものを題材として取り上げる。
- ・実際にあった出来事を取り入れてみる。
- ・生徒の好きなもの（キャラクターや芸能人）を授業の中に組み込んでみる。
- ・すべておぜん立てせず、あえて不便にしておく。
- ・文字や写真で提示する。
- ・活動内容をある程度固定し、活動を積み重ねる。→ 活動は広げるより深めた方がわかって動けるように思う。
- ・体験や経験を大事にする。まずやってみる。できない時支援の仕方を考える。
- ・授業のはじめに、活動の目的、これをするると自分や周囲にどんな良いことが起こるか・

【資料高1】

身につくかを提示する。

- 自信をもって進められるように、ある程度のできる状況作りを最初に行い、徐々に減らしていく。
- 小さな“できた！”や“前向きに取り組んでいる”姿をその都度評価し、継続して意欲を持てるようにする。
- ○○を知りたいと思わせる工夫。
- 学習内容をイメージできるもの（掲示物・写真・イラスト等）を用意する。わかりやすい言葉で伝える。

②できていないのでこれからやりたいな（やらねばな）と思っていること

- 個人内格差をどのように埋めながら、集団のまとまり（関わりあう集団）を作っていくか。
- 具体的にイメージしやすい、子どもの興味関心にあった目標の設定。
- 個に合った題材・計画・教材の準備。
- 待つこと。
- 単元を組むこと。子どもの主体的な学びを一時間の中で育て、支え、実現させることは難しい。しっかりと単元を組み、PDCA サイクルにのっとして評価しながら活動を積み重ねていけたらいいなと思うことがあります。
- 新たな引き出し作り。
- 体験や経験、興味関心のレベルから、確実に「自分でできる」「一人でできる」レベルにするための支援方法の工夫。本物の力にするためにどうしたらいいか工夫したい。

Q.3 児童生徒の主体的な学びを考えるとときに難しく感じること

- 作業または実習の場合、「働くこと」に全く意欲のわからない生徒に働く気を起こさせるのが困難。
- 学年、学部など一斉授業の際、“主体的”が難しい。
- 教職員によって求める姿が違うこと。支援は適切化するもの、あっていいものという捉えなのか、でいるだけない方がいいという捉えなのか。など
- 障害の重い児童生徒の“主体性”
- 活動時間の制約。
- 作業で取り組む場合、製品の精度を考えると、職員からの指示が多くなってしまうこと。
- 「主体性」を尊重するのにどこまで支援していいのか、いつも迷っています。
- 全体指導の中で個から主体的な姿を引き出したいときに、周囲がざわついてしまう、ゆっくり時間が取れないなど授業をまとめるときに難しく感じる。
- 「主体的な学び」のとらえ方が職員間で確認できていないことが今の難しさ。学校全体で「主体的な姿」を確認し、その姿を軸に授業作りを繰り返すしかないと思う。
- 見る人、査定する人によって主体的のとらえが異なっていること。（学部間でも異なっていると感じています。）

寄宿舎研究

平成30年12月25日

1 テーマ

児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して

～個別の生活指導計画の作成と活用における、寄宿舎における組織的な改善～

2 学部の方針

本校は教育目標を「児童生徒一人ひとりが個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る。」とし、その実現のために、寄宿舎に「自分から進んで日常生活を送ることができる」「周りの出来事に関心をもち、意欲をもって活動できる」を掲げている。

その教育目標をもとに、寄宿舎生全員を対象に個別の生活指導計画を取り組んでいる。その際に、目標の設定があいまいとなることや、手だてをうまく見つけられず指導内容が大まかなものとなり、効果的な指導を進めにくくなる状況がみられている。

そこで、個別の生活指導計画作成時に、寄宿舎生のよさと特徴を共有し、個性を重視した取り組みを組織的に行う中で、個別の生活指導計画が具体的、効果的な指導となり寄宿舎生が主体的に学び、成長できることをねらい設定した

3 内容及び方法

(1) 内容

- ア よさや興味関心を生かした実態把握の充実
- イ 興味関心を生かした指導計画検討
- ウ 生活指導場面における求める主体的な姿の共有を図る
- エ 客観的評価の検討と充実を図る

(2) 方法

- ア 個別の生活指導計画実態把握の検討
- イ 個別の生活指導計画事例をもとに検討する
- ウ 各棟会を通じた主体的な姿の明確化を図る
- エ 研究会を通して主体的な姿の共有と評価を検討する

4 今年度の実践事例

各教科等／ 単元名	社会生活	課題プリントが終わったことを指導員に伝えることができる。
指導 概要	<p>本寄宿舎生は発語が不明瞭のため、4月当初は相手に言葉で伝えることができず笑顔ではぐらかす様子がみられていた。本寄宿舎生は学校の音読宿題を寄宿舎の学習時間に取り組んでいる。この宿題は保護者の確認押印欄があり、大人が音読を聞いて確認することとなっている。本寄宿舎生は宿題をカバンから取り出した後、依頼できず戸惑う様子があり、当初は舎室担当指導員が付き添って取り組んでいた。</p> <p>宿題への意欲はあり、日常生活では、ひらがなを読むことができ、写真や線画の理解がある、人の名前を覚えようとする姿がみられていることから、学習時間に取り組む音読の宿題で、自ら指導員に依頼し音読に取り組んだ後、確認の押印をもらい宿題を終えることについて取り組むこととした。</p>	

指導の展開				
時間	生活内容	生活の活動	指導上の留意点	教材・教具
19:15	音読確認の 指導員選択 音読指導員 への依頼 音読	<ul style="list-style-type: none"> 写真カードから指導員の写真を選択する 「音読を聞いて欲しい先生」のマスの中に写真を掲示する。 原稿カードを持ち、指導員に依頼する。 音読を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真カードにひらがなで名前を記入し、名前を読めるようにした。 いる指導員の枠内に表示されている写真カードから選択することを奨める。 依頼に向かう前に決定した指導員の名前を尋ねる。 依頼された指導員は音読を聞く。 読めない漢字があった場合、伝える。 	写真カード 原稿カード
19:25	音読カード へ確認印記 入の	<ul style="list-style-type: none"> カードを差し出す。 カードを受け取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の評価を記号で書き込む。 	
工夫 した 点	<ul style="list-style-type: none"> けやき棟の指導員の顔写真を印刷し、マグネットでホワイトボードに貼ることができるよう準備したことで、自ら音読の依頼をしたい指導員を選択できるようになった。 伝え方を書いた原稿カードを用いることで、依頼時に用件を伝えることができるようになった。 音読の依頼を誰にするのか、写真カードと原稿カードの使い方を本人が指導員と確認することを繰り返しながら、1ヶ月ほどで手順を理解し、音読の依頼相手を決めるようになった。 			
成果 及び 改善 点	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初は関わりの慣れている担当指導員を選んでいることが多かった。写真カードの活用後、本人が選択し伝える姿が増えてきた。 依頼の際、はじめは原稿を見ながら伝えることが多くみられたが、取り組みから3ヶ月経過した頃には原稿を見なくても自分の言葉で伝えようとする姿が増加した。 今後、指導員の選択から一人で行えるように手立てを工夫していきたい。 			

5 まとめ

(1) 今年度の成果

- ア 実態把握へ客観的な評価を活用するため、適応行動評価（Vineland II）を試みたことで、寄宿舍生の見立てに無理が無いよう指導員間で協議する機会が増えた。
- イ 適応行動評価（Vineland II）の強みと弱みと寄宿舍内の実態把握内容をすり合わせ、良さや関心の傾向を確認することができた。

ウ プランニングシート（資料舎1）の利用により、個別の生活指導計画作成時見立ての過程が明らかになり指導員間の共有に活用できる。

（2）今年度の課題

ア 良さや関心を生かすために、実態把握に項目を追加する必要がある。

イ 実態把握と棟共有に時間を要してしまい取り組みが遅れた。主体的な活動の共有に時間がかかってしまった。

ウ プランニングシート作成時、重複した記述になることがあったため項目を見直す必要がある。

エ 主体的な姿の共有を図るため、プランニングシートに記載項目を設定する。

オ 適応行動評価（VinelandⅡ）を十分活用するまでに至らなかった。

Aさん	中学部	1年生	17	男
障害名、疾病等	精神発達遅滞			
障害の状態、発達の状態、程度	<ul style="list-style-type: none"> ・針時計は分単位の細かな時刻が難しい。デジタル時計は読み取ることができる。 ・時間より周囲の行動に倣い行動することが多い。そのため、時間に起きても布団に入ったままであることがある。 ・布団をしまう際、丸めて押し入れに収納することが多い。 			
興味、関心	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた課題に最後まで取り組むことができる。 ・困ったときには、近くに居る職員に視線を向けることができる。 			
寄宿舎生活でみられる長所、良さ	<ul style="list-style-type: none"> ・日課に沿って暮らすことで、見通しが持ちやすく自ら進んで活動に移ることがある。 ・集団で過ごすことで、自分の行動を修正することがある。 ・睡眠は8時間とることができている。体験から学習する様子が多い ・6:30の時刻を読むことができる。 ・シールのご褒美を楽しみにしているようだ。 			
行動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言語が不明瞭である。聞き返えされても、めげずに答えることができる。 ・慣れない人に、自ら行動を起こすことが難しい。 			
本人の願い(もしくは保護者)	(聞き取りできず)			

健康保持	心理的な安定	環境の把握	人との関り	コミュニケーション	体の動き
<ul style="list-style-type: none"> ・十分な睡眠時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の話し声や急な関わりが少ないと目的に向かい自ら活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況を見て学習時間に部屋へ向かうことができる。 ・周りの行動に習い自ら動くことができる。 ・特定の時刻を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れた人に話をすることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身振りや指さして伝えようとする人が多い。 ・言葉で、聞き取れるよう話すことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模倣ができる。 ・バランスを崩すことなく、布団を持ち上げることができる。 ・押し入れに入れることができる。

<p>(1、3より) 寄宿舎生活上の困難さを、これまでの生活行動から整理すると</p> <p>(できていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な睡眠がとれている。2連覇 ・周囲の状況を見ながら、日課に沿って過ごすことができている。 ・困ったときに、職員に目を向けたり、身振りで伝えたりしようとする。 ・6:30の時刻を読むことができる。 ・シールのご褒美を楽しみにしていることがある。 ・写真や線画の理解がある。 <p>(困難さ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計を見て、自らの行動を決定することが難しい。 ・言葉が不明瞭なため、相手に伝わるように話すことが難しい。 ・慣れない人に対して、自ら行動を起こすことが難しい。

<p>(2と4から) 収集した情報から卒後の姿の視点から整理すると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計を見て行動することや周囲に流されず意思決定する経験の積み重ねなどが必要である。 ・周囲と円滑なコミュニケーションを目指し、会話の定型文を増やすこと、たくさんの人と積極的にコミュニケーションをとったりする経験などが必要である。
--

<p>4と5の情報から見える課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の状況を見て行動することが多いため、時計を見るなどして主体的に行動を決定することが難しい。 ・慣れない人に対して自ら行動を起こすことについてはまだ難しく、慣れている人が相手でも、言葉ではなく身振り手振りで済ませようとする様子が見られる。

<p>6で見た課題の、寄宿舎日常生活と社会性の関連、具体的な指導情報を抽出</p> <p>(日常生活) 自ら起床できるのだが時間が遅くなることが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起床のご褒美シールをつなげた行動確認 <p>(社会生活) 困ったときや頼みたい事柄を職員に依頼することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の職員顔写真から、生徒が1枚選択し依頼する。
